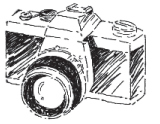


刈谷での出来事
を写真付きで
紹介します。



カメラだより

義足ダンサーがやってきた

刈谷特別支援学校(9月30日)



義足ダンサー大前光市さんが刈谷特別支援学校にやってきました。大前さんのダンスを見たり、話を聞いたりして、多くの刺激を受けた子どもたち。大前さんが「今日はみんなと一緒に踊ってみようと思います」と言うと、始めは遠慮がちだった子どもたちでしたが、次第に笑顔を見せながら一緒に踊る姿がありました。

美しい景色やすばらしい異国の文化を学ぶ

雁が音中学校(9月30日)



ウクライナ出身のイリーナさんによる、母国の美しい景色や文化を紹介する講演会や、生徒たちとの交流会が、雁が音中学校で行われました。交流会で生徒たちは、実際に伝統品や硬貨に触れ、事前に考えた英語で質疑応答を行いながら、イリーナさんとの会話を緊張しつつも楽しんでいました。生徒は「英語という共通言語でお互いの文化や伝統が分かち合えるってすごいなと実感しました」と笑顔で話しました。

愛称は「KariCoCo」に決定!

刈谷駅北地区地域交流施設(10月2日)



開設1周年を記念し、愛称とロゴの披露と表彰式が行われました。愛称は「Kariya-Communication-Connection-Space」の略で、つながりを意識し皆さんに親しまれるよう名付けられ、発案者である島本大史さんが表彰されました。施設管理者であるNPO法人まちづくりかりやの成田理事長は「1年間でおおよそ35,000人が利用した。愛称とロゴが市民に浸透し、より多くの人に利用してもらいたい」と抱負を述べました。

3年ぶりに開催! 帰ってきた福祉の祭り

総合文化センター・みなくる広場(10月16日)



新型コロナウイルス感染症の影響で、3年ぶりの開催となった福祉・健康フェスティバル。講演会では、フリーアナウンサーの笠井信輔さんが登壇し、なかなか聞くことのできない話に、会場の人は熱心に耳を傾けていました。当日は天候にも恵まれ、出店や体験ブースは多くの人で大盛況。思いやりの心を持つきっかけにつながるイベントとなりました。